

## 7 恵南豪雨災害を振り返る～発生から 20 年～

東濃森林管理署 治山技術官 ○菅野 暢晃  
治山技術官 中澤 栄貴

### 1. 課題を取り上げた背景

近年、異常気象による大規模災害が日本各地に大きな被害をもたらしており、国土の保全が益々重要となっています。

東濃森林管理署管内では平成 12 年 9 月に岐阜県恵那市上矢作町において、「恵南豪雨災害」と呼ばれる甚大な災害が発生しました。

今回恵南豪雨災害より今年で 20 年という節目の年を迎えるにあたり、当時の災害状況を振り返るとともに、これまでの取り組みと現在の復旧状況について取りまとめました。

### 2. 恵南豪雨災害の概要

#### ・東海地方全体の被害状況について

平成 12 年 9 月 11 日から 12 日にかけて日本海付近に停滞していた秋雨前線に台風 14 号から暖かく湿った気流が流れ込んだことにより前線の活動が活発となり、東海地方を中心に記録的な豪雨をもたらしました。

#### ・岐阜県内の被害状況

岐阜県全体では、死亡者 1 名、負傷者 1 名、住家の全壊(流出)・半壊 23 戸の被害が発生しました。上矢作町は、上村川かみむらがわと矢作川やはぎがわが流れ、上村川の氾濫により、死亡者 1 名、住家の全壊(流出)・半壊 23 戸の被害が発生し、上矢作町全

内訳	住家	
	岐阜県	
	うち上矢作町	
全壊(流出)	11戸	11戸
半壊	12戸	12戸
一部損壊	4戸	2戸
床上浸水	108戸	13戸
床下浸水	390戸	49戸

岐阜県内での被害状況

戸で停電や断水となり、主要な国道等の寸断により 127 世帯 430 人が一時孤立状態となるなど甚大な被害が発生しました。

#### ・国有林の被害状況について

当時の東濃森林管理署中津川事務所管内の被害は、山腹崩壊が 169 箇所・林道の被害は 11 路線で橋梁の流出・路肩決壊が約 5.6km に上り全体の被害金額は約 142 億円に上りました。

#### ・現在の復旧状況について

当災害は、山腹崩壊により流木や土砂が流失し民家等に被害を拡大させたことから防災対策としてまず、更なる流木を防ぐために平成 13 年度に上村川に繋がる 2 つの支流に鋼製スリット谷止工等を施工しました。その後令和元年度までに崩壊箇所の復旧のためコンクリート構造物を含む溪間工を 57 基、山腹工を約 38ha 施工しました。

### 3. 今後の取り組み

恵南豪雨では、当該地域周辺の地質が崩れやすい風化花崗岩のマサ土であったことや山腹崩壊による大量の流木が被害拡大の要因となりました。そこで現在、マサ土に適した工法や新たな流木補捉工の施工・検証を行っているところです。

今後も早期の林地復旧と防災・減災に努めて行きたいと思えます。



白井沢支流の災害発生時と復旧後 20 年経過した状況